

シシトウ

枝折れ防ぐ風対策を



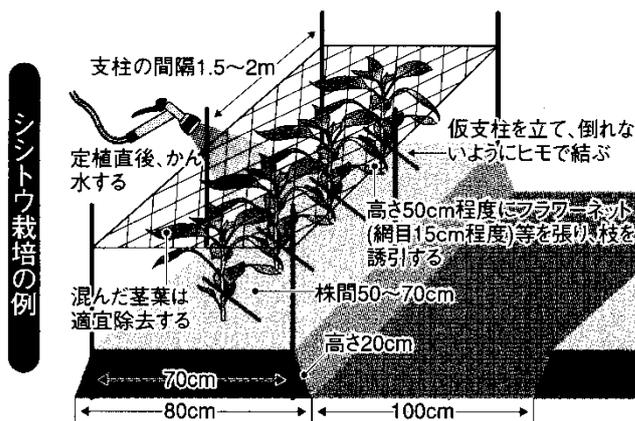
——永田 茂穂

ナス科トウガラシ属の一年生草本（熱帯では多年生）で、辛味のないトウガラシです。原産地は中央・南アメリカの熱帯地方です。トウガラシは16世紀にポルトガル人によって伝えられたとされ、甘味種（伏見甘など）の栽培は江戸時代後期にはあったようです。

3～4gの小さい果実を食用にしますが、生食は少なく、天ぷらや炒め物の材料に利用されています。ピーマンと同様にビタミンC、カロテンなど機能性成分を多く含み、栄養価が高い黄緑野菜です。

発芽適温は30度、生育適温は昼温28～30度、夜温20～23度で高温を好み、19度以下では受精不良になります。ここでは、露地の普通栽培を紹介します。

定植期は晩霜の心配がなくなる4～5月です。購入苗を準備するか、育苗をします。育苗の場合、播種期は2月で、ハウスやトンネルで温床を利用して育苗します。育苗期間は70～100日程度です。本葉が12枚くらいで花の咲き始めたころが定植の適期です。



シシトウは、風で枝が折れやすいので強風の当たらない場所が適します。日当たりが良く排水の良いほ場を準備します。また、風対策として防風垣や防風ネットを設置します。定植の1週間前までに1平方メートル当たり堆肥2kg、苦土石灰100g、化学肥料130g（3要素15%の場合）程度を施し、できるだけ深く耕うんします。栽植密度は、うね幅180cm、株間50～70cmです。幅80cm、高さ20cm程度のうねを作り、定植します。

定植後は十分にかん水し、活着を促します。

風や枝の重みで苗が倒れないよう定植直後に苗の横に仮支柱を斜めに立て、苗をヒモで結び付けます。活着して枝が伸びてきたら支柱を立て、ネットを水平に展開して枝を誘引します。

定植後1カ月程度で収穫が始まります。長さ6cm程度で果柄を付けて収穫します。収穫が始まったら月に1回程度追肥（30g）します。また、土壌水分が不足すると辛味果の発が多くなります。晴天が続くときはこまめにかん水します。なお、茎葉が混んでいるところは適宜摘除します。上手に管理すると10月ごろまで収穫できます。

（鹿児島県農業開発総合センター園芸作物部長）

平成23年（2011）2月10日（木）／南日本新聞